

仕事人秘録

外部の人材登用に力を
入れ、中小企業の「壁」を
突き破った。

社長に就いた時、すでに
大阪、静岡、福岡に工場が
ありました。マロニーは鍋
商材としての需要が大きい
ため、12月などは営業担当
者も営業に出ていけないほ
ど忙しく、私も含めて総出
で工場に入ります。そんな
状況が1995年から3年
ほど続きました。

このころ中村玉緒さんの
CM効果で東日本の需要が
伸びていました。既存工場
の建て替えも考えました
が、操業を止めるわけには
いかず、新設を決めました。
浜松工場(静岡県磐田市)
に半分ほど余っていた土地
に新工場が完成したのは98
年でした。

看板商品がトップ育てる ⑨

マロニー社長
河内 幸枝氏



昨年6月に操業開始
した信州伊那工場

外部人材登用、「企業」らしく

た。ヤマハ発動機グループで営業週報の束を渡し、当
のIT(情報技術)ノウハ
社を生かし、生産技術の向
上に取り組んでくれたので
す。ヤマハ発動機を定年退
職後は当社の取締役として
迎えました。
後任も再びヤマハ発動機
から来てもらいました。杉
浦三夫取締役製造部長は2
で営業週報の束を渡し、当
社の課題と解決法を提案し
てもらったところ、紙1枚
に的を射た答えが集約され
ていました。候補者の中か
ら「絶対に上野がいい」と
選びました。
彼を軸に販売管理にIT
を導入し、必要なデータを
可視化する営業改革に乗り
出しました。食品業界は長
年の商習慣から舟勘定など
ころがあります。社員の意

父の代から製造について
は叔父が担当してしまし
た。私を立ててくれ、私も
彼の領域である製造には口
出ししなかった。結果的に、
製造技術に関する私の知識
が乏しかったこともあり、
浜松新工場では思い描いた
ような省力化を実現できま
せんでした。
99年、ヤマハ発動機か
ら迎えた人材が技術革新
の推進役となった。
濱松工場では人事や労務を
補佐する人を探してしまし
た。中小企業は人の面で制
約があります。1人が定年
退職すると中途採用で1人
補うので長期的に人を育て
ることが難しいのです。
人材会社を通じ、ヤマハ
発動機の赤羽一仁氏(現顧
問)を紹介されました。会
ってみると目からうろこが
落ちる思いで「この人に会
えて良かった」と思いまし
が入社しました。入社試験
011年6月に操業を開始
した信州伊那工場(長野県
伊那市)の責任者です。生
産工程の機械化など、彼の
おかげで浜松新工場で実現
できなかった夢を信州伊那
工場ですぐかなえるこ
とができました。
生産管理の次は営業管理
です。05年、イオンクレジ
ットサービス出身の上野昌
樹氏(現取締役営業部長)
との出会いで当社は家業か
ら企業へ変わったのです。

経営・人事